

もくじ

1. ピーターパン 2
2. 賢者の贈り物48
3. わがままな大男68
4. ヴェニスの人90
5. 青い鳥 122

ピーターパン

原作： ジェームス・マシュー・バリー
イラスト： ナナホシ
編集： YellowBirdProject

「さあ、いこう！みんな、ぼくの^{あと}後についてきて！」

ピーターパンを^{せんとう}先頭にして、ウェンディたちは^{まど}窓から^{そと}外に
^と飛び^だ出しました。

「^み見てよウェンディ、^{まち}ロンドンの街が、
^{ちい}あんなに小さくなってる」

「みんな、ネバーランドはすぐそこだ。
^{おお}あの^{くも}大きな^む雲の向こうだよ」

ピーターパンたちは、^{よぞら}夜空に^う浮かぶ^{くも}雲の^{なか}中に^と飛び^こ込んでいき
ました。

その^{ころ}頃、ネバーランドでは、^{かいぞく}海賊たちがピーターパンのこと
を、^ち血まなこになって^{さが}探していました。



「え、ほ、本当ですか、シャイロックさん！」

「待て、バッサニオ!・・・シャイロック、どういふつもりだ？」

「おいおいアントニオ。君は私を誤解している。

私は君が信頼できる人物だから、金を貸すと言っているのだ。

君も私を信頼してくれ」

「・・・わかった。ありがとうシャイロック。一週間後に、海に出ている私の船が戻ってくる。金はその時に必ず返そう」

「それでいい。・・・ああ、そうだ。一つだけ条件をつけよう」

「なんだ」

「なあに、遊びみたいなもんさ。

もし一週間以内に金が返せなかったら、

アントニオ、お前の体の肉を、1ポンドいただこう」

「そんな!むちゃくちゃじゃないですか!？」

「大丈夫だバッサニオ。シャイロック、その条件を飲もう」

「さすがはアントニオ!度胸がいいなあ」

シャイロックは机から、契約書とペンを取り出しました。



き がつくと二人は、^{ふたり} 静かな^{しず} 森の中^{もり なか}にいました。

みち む 道の向こうに、^{み おほ} 見覚えのある^{ちい} 小さな家^{いえ}が^た建っていました。

「あ、あの家^{いえ}は、おじいちゃんの家^{いえ}だ！」

ミチルは^{おおごえ} 大声でさけびました。

ふたり 二人は『思い出の国』^き に来ていたのです。

